

## 笠井文雄相談役理事(前理事長)が「旭日双光章」を受章

当協同組合第9代理事長を努められ、現在相談役理事の笠井文雄氏(菊水(株)代表取締役社長)が、去る4月29日に長年の木材建材業界への功績を称えられ、春の叙勲において「旭日双光章」を受章されました。

「旭日章(きよくじつしょう、Orders of the Rising Sun)」は、明治8年に制定された日本の勲章の一つで、「国家または公共に対し功労がある者の内、功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者」に対して授与される勲章です。

勲章のデザインは日章を中心に光線(旭日)を配し、紐には桐の花葉を用いられており、とても重厚な装いです。



### 笠井文雄相談役理事からのメッセージ

思いがけぬ受章の栄誉に浴し、身に余る光栄です。これもひとえに業界の皆様のご支援、ご協力、ご指導のお陰と心より感謝しております。サラリーマンから独立して32年。

昭和60年に第4代大阪木材工場団地協同組合、故中川藤一理事長からご推薦いただき、理事に就任させていただきました。

昭和63年から副理事長、平成17年から2年間は理事長を努めさせていただきました。

合板業界は、昭和56年から大阪合板商業組合長、日本合板建材商業組合関西支部長、日本合板商業組合副理事長としてお役目を努めさせていただく中で「出会い」と「絆」を多く深めることができたことが、最も嬉しく有難いものとお礼と感謝の気持ちで一杯です。未だ未熟物ですが、これからも、より一層、業界の発展のために尽くしていきたいと思っております。



菊水 株式会社  
代表取締役社長 笠井 文雄

ありがとうございました。

#### 笠井文雄氏プロフィール

昭和13年大阪市生  
昭和36年関西大学卒業後、永大産業(株)に入社。  
昭和52年に菊水(株)代表取締役社長に就任、現在に至る。  
(主な役員履歴)  
大阪木材工場団地協同組合 通算役員履歴 24年 / 前理事長(現相談役理事)  
大阪合板建材商業組合 通算役員履歴 26年 / 元組合長  
日本合板建材商業組合関西支部 通算役員履歴 25年 / 元副支部長  
日本合板商業組合 通算役員履歴 14年 / 元副理事長

推薦者の大阪府木材連合会越井健会長からのお祝いメッセージをいただきました。

### 越井健会長からの祝辞

笠井様、このたびの栄えある旭日双光章ご受章心からお慶び申し上げます。ご家族はもとより、長年にわたるお付き合いお取引等関係の方々にも心からお慶び申し上げます。

笠井様は、40年以上に亘り、木材・建材流通業に従事し、住宅建材の総合商社として流通システムの効率化、材木店、工務店との連携による地域密着型産業への取り組み等、常に時代の流れを先取り、販路を開拓した功績は非常に大きく、また、大阪木材工場団地協同組合 理事長、大阪合板建材商業組合 組合長、日本合板商業組合 副理事長と要職を務め、木材建材業界の振興に寄与し、業界の発展に大きく貢献されました。

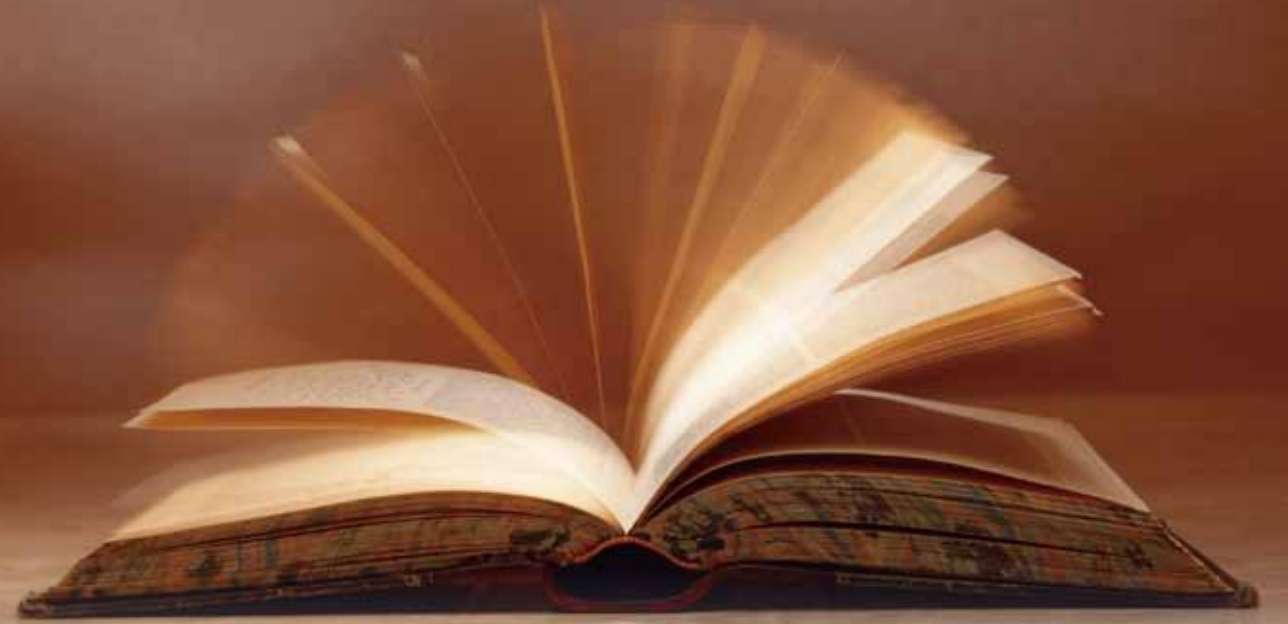
笠井様には、今回のご受章を契機に、ますます健康に留意され、専門的な見識と豊富な経験を活かし、業界の発展に一層のご指導ご活躍のほどご祈念申し上げます。



社団法人  
大阪府木材連合会  
会長 越井 健

# 組合からの“発信”

今回は、副理事長 浅野敏行((株)アサノ 代表取締役社長)からのメッセージです。



## 「格闘的読書のすすめ」

皆さん、最近どんな本をお読みでしょうか。「趣味：読書」とはほど遠い我が身を反省して、数年前より、古典的名著と言われている本ぐらいはこの世にいる間にちゃんと読んでおかなきゃという気持ちでおります。

で、小生が最近読み了えた本ですが、岩波新書の青版の中の、E.H.カーの「歴史とは何か」(清水幾太郎訳)であります。元々外交官で、後にケンブリッジ大学の歴史の教授となったE.H.カーが、1961年の1月から3月にかけて、ケンブリッジ大学及びBBC放送で行なった講演が基になった著作です。

学生時代から読まなきゃ読まなきゃと思いつつようやく35年経って自分へのノルマを果たした気分です。岩波新書では、昨年、最も古い赤版の中の、池田潔著「自由と規律」をやっと読んだぐらいですから、いかに不勉強であるかが判ってしまいます。

それにしても、「歴史とは何か」。これほど難解な書物とは思いませんでした。230頁ほどの本に何と10ヶ月を要しました。通常、帰宅途上の電車の中、30分ほどを使って、文学書と一般教養書とを1冊ずつ読むようにしていますので、余計に一冊を読み了えるのに時間がかかるのですが、「歴史とは何か」は特別でした。歴史の根本問題について論じた歴史哲学の書ですが、読み飛ばしでは、読まなかったのと同じで、自分の中に何も残らないことになってしまいますから、とにかく自分なりに内容が理解できるまで時間を

かけてでも読むようにしました。となると、1日1頁進むのが限度。3日前、2日前、前日の3頁分をまず復習してから新しい頁に入るという読み方で、1回に4頁読むことになるのですが、グリーンマーカーを引きまくり、ボールペンで線を引きまくりで、まさに書物との格闘を実感しながらの読書でした。これだけ悪戦苦闘すると初日、二日目には著者が何を言わんとしているのか皆目理解できなかった箇所が、三日目あたりになると、あ〜こういうことを言いたかったのかとなんとなくわかったような気になってきます。

「歴史とは、現在と過去との対話である。」E.H.カーの有名な概念が繰り返し表現を変えて著されています。歴史とは、現在に属する歴史家の解釈と、過去に属する歴史的事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話である(つまり、歴史的事実とされているできごと、それに対する歴史家の解釈とは相互に影響を与えながら少しずつ変化をしてゆくという意味です)。また、過去は、現在の光に照らして初めて理解できるものであり、過去の光に照らして初めて現在をよく理解することができるものである、とも述べられています。示唆に富むことばは、これ以外にもたくさんあるのですが、紙面の関係でこれにとどめたいと思います。

残りの人生を悔いなく生きるために、必読書完全制覇を目指して、これからも亀の歩みで頑張っけてゆきたいと思っております。

浅野 敏行

## C O N T E N T S

- 笠井文雄氏(協同組合相談役理事)が「旭日双光章」を受章…P1
- 組合からの“発信”……………P2
- 組合からの情報発信基地……………P3~4
- 組合員企業の紹介……………P5~6
- 木のある暮らし……………P7
- こだわりスポット・みはらトピックス……………P8
- 毎日の健康なくらし……………P9
- コラム ねこに癒される日々……………P10